

■トラック1

■場所:執務室

■主人公:椅子に座り、デスクで事務作業中

■SE:筆記音、椅子の軋み音、書類を動かす際の音

■ヒロイン:執務室を訪ねてくる

■SE:ノック音

■正面(遠)※扉越し

私です、アージュラです

入っても良いですか？

■主人公:許可を出すも、仕事は継続したまま(SE継続)

失礼しますね

■ヒロイン:扉を開け、トレイを手にしたまま近づいてくる

■SE:扉の開閉音、近づいてくる際の足音、トレイの上でカップとソーサーが揺れる音

■ヒロイン:ソーサーに乗ったカップをデスクにのせる

■SE:カップをデスクにのせる音

■正面(中)※デスクを挟んだ向かい側

お茶を淹れてきました

少しは休憩されたらどうですか？

■主人公:忙しそうに書類をめくったり、書き込んだりを続ける

■SE:筆記音、書類をめくる音

//軽く心配した様子

お忙しいのは分かります

魔物の出現と侵攻……この国の一大事ですから

戦況報告も私の方まで上がってきています

.....決して良いとは言えない状況です
ですが、圧倒的な戦力差もあるとは思いません
私の見立てでは、戦力は拮抗しているかと思います
となれば、持久戦は必至
だからこそ、休息が必要です
あなたは国のトップに立たれているお方ですから
正しい判断をするためにも、体を休めてください
休息を取るのも立派なお仕事ですよ

//優しく穏やかな口調
休憩室でお待ちしております
戦いのお役に立つことはできませんが、癒やして差し上げることはできますから
一段落付いてからで良いので、顔を出されてください
では.....

- ヒロイン: 部屋を立ち去る
- SE: 遠ざかっていく足音、扉の開閉音

■トラック2

- 場所: 休憩室(シーン開始時は休憩室前の廊下)
- 主人公: 休憩室を訪れる
- SE: 廊下を歩く音、休憩室扉の開閉音
- ヒロイン: ベッドに腰掛け主人公を出迎える
- SE: ベッドの軋み音

■正面(遠)

//ねぎらい口調

お疲れ様です

きっと来てくださると信じていましたよ

■ヒロイン:自分の隣部分のベッドを軽く叩く

■SE:ベッドを軽く叩く音

お隣にどうぞ

■主人公:ベッドに向かって移動

■SE:移動音、ベッドに腰掛ける際の軋み音

■主人公とヒロイン:隣同士にベッドへ腰掛けた状態

■左(中)

日夜魔物との戦いにお疲れのお体

どうすれば癒やしてさしあげられるかと色々と考えてみたのですが.....

耳かきなんていかがでしょうか

覚えていらっしゃるでしょうか？

新婚の時はよくして差し上げていました

ですが最近はお忙しくて全然して差し上げられていませんので

■ヒロイン:膝を軽く叩く

■SE:膝を叩く際の音

お膝の上に頭を乗せられてください

■主人公:ヒロインの言葉に従い、右耳を上にするようにして膝枕状態へ

■SE:ベッドの軋み音、衣擦れ音

■右(中)

.....ふふっ

膝枕もお久しぶりですね

なんだかドキドキしてしまいます

■SE:身じろぎ音

では耳かきの前に、軽くマッサージから始めましょうか

■主人公:マッサージ？と聞き返す

はい、マッサージです

肩や背中と同じようにお耳をもみほぐしてあげると心地良いんですよ

■ヒロイン:耳のマッサージ開始

■SE:マッサージ音

//以降、間を十分に取りゆったりと進行

いかがですか？

.....ふふっ

ようやく眉間のシワがなくなりましたね

お気づきでしたか？
ここ最近ずっと怖い顔をしていましたよ
……無理ありません
戦いは昼夜問わず続いていますから
ですが今この瞬間だけは、何もかも忘れてリラックスしてください

お耳が赤くなってきましたよ
もしかして照れていらっしゃるでしょうか？
……ふふ、違いますよね
マッサージで血行が良くなった証拠です

そろそろ耳がポカポカしてきたかと思います
ここまでくれば耳のマッサージは完了です
このまま耳かきを始めますね

■ヒロイン: ベッドサイドテーブルに置かれていた耳かきを手に取る
■SE: テーブルから耳かきを持ち上げる音

耳の中を怪我をしてしまいますから、頭は動かさないでください

■ヒロイン: 耳かき開始
■SE: 耳かき棒による耳かき音

久しぶりの耳かきはいかがですか？
お好きですね、耳かき掃除
本当は一週間に一度はして差し上げたいところですが
ゆっくり出来るのは、魔物との戦いが終わってからですね

少しネガティブになられていませんか？
長期戦ですから、気落ちすることもあると思います
ですがよく思い出してみてください
以前隣国から攻められた時のことを
今の状況とよく似ていました
そして、見事我が国は勝利を勝ち取りました
それもすべてあなたのおかげです
あの時の自信と誇りを思い出してみてください

国の長として、責任が重大だと思いでしょ
.....ですが、あなたは一人ではありません
戦っているのはこの国の民のすべてです
頼れる部下がいます
慕ってくれる国民がいます
そして私もいます
それだけはどうか忘れないでください
一人で背負い込まずに、一丸となって戦い抜きましょう

.....あ.....
大きな耳垢を見つけました
動かないようにお願いしますね？

ん～.....なかなかの強敵です
ですが、必ず取り除いて見せます

カリカリ.....カリカリ.....カリカリカリ.....
少し剥がれかけてきました
あと少しの辛抱ですよ

.....よし、取れました
ふふっ
たかが耳掃除ですが、大きな耳垢が取れると嬉しいものですね

■主人公:ヒロインの無邪気な様子に思わず笑う

//軽く恥ずかしそうに
.....もう、なんですか？
笑うなんてひどいですよ
耳掃除にこれだけ熱くなっているの、おもしろいですか？
.....私にはこんなことしか出来ませんから
それに笑って和んでいただけるのであればいくらでもどうぞ

ん.....？
奥にもう一つ大きな耳垢があります
お掃除しますね

痛くはありませんか？
大事なお体ですので傷つたくはありません
ですが、耳垢を見逃すわけにもいきませんから.....
もう少し奥まで入れます
痛かったら遠慮なく言ってくださいませ

.....よし、取れました
いくら手強い相手でも、諦めずにじっくり時間をかければ必ず勝利を手に入れられます
だから今回の戦いも.....
.....少し偉そうなことを言ってしまいました
今の言葉はどうか忘れてください

//耳の中をのぞき込みながら
ん～.....
大きな汚れはだいたい取り終わりました
残りの細かい汚れは耳かき棒では無理なので.....

■ヒロイン: ベッドサイドテーブルに耳かき棒を置き、綿棒を手にする
■SE: 耳かき棒を置く音、綿棒を手にする音

綿棒でお掃除していきましょう
では、失礼します

まだ戦場のことを気にかけていますか？
大丈夫です、安心されてください
今戦っているのは、先の戦いで多くの兵を導いた勇ましい方たちばかりです
魔物達が占拠した村を、必ずや奪還してくれるものと確信しています
ですからどうか、今だけは忘れてください
綿棒の心地良い刺激と音だけに意識を集中して.....

//主人公の反応に思わず笑ってしまう
.....ふふっ
思い出しました
前にして差し上げた時も、ここをお掃除されるのが一番のお気に入りでしたね
久しぶりでしたので、忘れてしまっていました
ですがもう忘れません
いつでもどこでも、耳掃除をしてほしくなったらいつでもお申し付けください
このお好きなおところを重点的にお掃除して、癒やして差し上げます

//綿棒掃除を止め、耳の中をのぞき込む
ん～.....
耳の中、随分綺麗になりましたね
残るは.....耳の表面だけです
綿棒では取り切れないので、梵天を使いますね
.....そうです
耳かき棒についてるアレです

■ヒロイン: 綿棒を戻し、再び耳かき棒を手にする
■SE: 綿棒を置く音、耳かき棒を手にする音

■ヒロイン: 梵天掃除開始

■SE:梵天が耳に当たる音

くすぐったいですか？
しばらく我慢です
その内心地よくなってくると思います

いかがですか？
そろそろやみつきになってこられたころだと思いますが

梵天、気持ちいいですよ
私も大好きです
ですが、自分でするよりも人にしてもらう方が気持ちいいと思いませんか？
どうしてでしょうね
やっぱり甘えられるからでしょうか

国王と言っても、あなたはあなたです
強い部分も弱い部分もお持ちなのは分かっています
だから一人で悩まないでください
私がついています
心が苦しい時は甘えてください
私はあなたの伴侶なのでから……

■ヒロイン:梵天掃除を終える

■SE:耳かき棒をサイドテーブルに置く音

梵天お掃除も終わりです
……ですが、耳掃除はまだ続きます
梵天でも取り切れない細かい汚れが表面に残っていますから
これを綺麗にするにはやはり……

■ヒロイン:主人公の耳元に顔を寄せる

■主人公:時折体をよじらせる

■SE:ベッドの軋み音

■右(密着・有声囁き)

ふー……
息で優しく吹き飛ばしてあげるしかありませんよね
ふふふう～……ふー……ふう……ふー——つ……ふう～……
ふふふう～……ふつ……ふつ……ふう～……ふー……
ふうー……ふう～～～……ふつ……ふふふう～……ふう……
ふつ……ふつ……ふう～～～……ふう……ふうー……
くすぐったいですか？
さっきから体がもじもじ動いてますよ
ふう……ふう～～～……ふう……ふー——つ……ふう～……
ふー——つ……ふう～～～……ふう～……ふう……ふふふう～……
ふー……ふつ……ふう～……ふう～……ふう……
くすぐったいのは分かります
ですが大事な仕上げなので、我慢してください
ふー……ふう……ふう～……ふつ……ふうー……
ふつ……ふう～……ふう～～～……ふう……ふうー……

ふふふう～……ふつ……ふう～……ふー……ふう～……
我慢出来ずに動くの、なんだか可愛らしいです
国王様にこんなこと言うのは失礼ですよ
ふう……ふう……ふつ……ふー——つ……ふふふう～……
ふう～……ふー……ふうー……ふう……ふふふう～……
ふー……ふう……ふう～……ふう……ふー……

耳、弱いでもんね
でも嬉しいです
あなたの敏感な部分を知っているのは私だけですから……
ふう～……ふふふう～……ふう～……ふうー……ふうー……
ふー——つ……ふつ……ふー——つ……ふう～……ふうー……
ふうー……ふー——つ……ふつ……ふう～……ふー……
ふう～～～……ふう～～～……ふつ……ふう……ふつ……
気に入っていただけたようなので、長めにします
止めて欲しくなったらいつでも言ってください
ふう～～～……ふー……ふうー……ふー——つ……ふつ……
ふー——つ……ふうー……ふう～～～……ふう～……ふつ……
ふうー……ふー——つ……ふうー……ふう……ふう……
ふう……ふうー……ふう……ふー——つ……ふー……
ふう……ふう～～～……ふー——つ……ふつ……ふつ……
ふー——つ……ふふふう～……ふう～……ふつ……ふう～……
ふふふう～……ふー——つ……ふつ……ふう～……ふうー……
ふうー……ふつ……ふう……ふふふう～……ふう……
……ふふつ
全然止めてとは言わないんですね
だったらいつまでもして差し上げますよ……？
ふふふう～……ふうー……ふうー……ふう……ふうー……
ふうー……ふつ……ふふふう～……ふつ……ふー——つ……
ふう～……ふー……ふー——つ……ふふふう～……ふー……
ふう～～～……ふー……ふうー……ふう～～～……ふつ……
ふう～……ふー——つ……ふうー……ふう～……ふう～～～……
ふふふう～……ふう……ふう……ふー——つ……ふつ……
ふう……ふー——つ……ふう～～～……ふうー……ふう～……
ふうー……ふうー……ふつ……ふー——つ……ふつ……
ふう……ふう～～～……ふうー……ふう～……ふう……
ふう～……ふう～～～……ふつ……ふふふう～……ふう……
ふうー……ふー——つ……ふう～……ふふふう～……ふう～～～……
ふつ……ふう～……ふふふう～……ふう……ふふふう～……

ふう……ふう……ふうー……ふっ……ふう……
ふう～～～……ふうー……ふっ……ふー——っ……ふう……

■ヒロイン:体を起こす

■SE:ベッドの軋み音

■右(中)

//軽く呼吸を乱した状態

ふう……ふう……ふう……

夢中になり過ぎました

さすがに吹きかけすぎで……少しクラクラします

■主人公:心配した様子

……いえ、大丈夫です

ご心配いただきありがとうございます

あなたのお疲れと比べたら私の疲れなんてどうということはありませんよ

少し休憩したら、左耳のお掃除をして差し上げますね

■トラック3

■右(中)

もう大丈夫です

それでは左耳のお掃除始めましょう

.....どうしましょうか

そのままお膝の上で寝返り打てますか？

■主人公: 膝枕状態のまま寝返りを打ち、左を上にして寝転がる

■SE: 寝返りを打つ際の衣擦れ音、ベッドの軋み音

■左(中)

はい、ありがとうございます

// 耳の中を観察するようにのぞき込む

ん～.....こちらの耳も結構汚れが溜まっているようですね

早速綺麗にしたいところですが、まずは耳のマッサージでほぐしてからです

■ヒロイン: 耳マッサージを開始

■SE: マッサージ音

.....ふふっ

もう耳が赤くなってきました

どの部分が気持ちいいのか、分かるようになってきましたから

実はマッサージの勉強をしていたんです

いつも休みなく働いていらっしやるので、何かのお役に立ちたくて.....

東洋には、ツボという概念があるそうですよ

特定の部分を押すと、体の不調を治す効果があるそうです

耳のマッサージなのに、胃腸の調子を整えたり肩こりを解消したり

不思議ですよ

肩や背中でのマッサージの勉強もしておきましたので、時間があれば後ほど.....

こっちのお耳ももう真っ赤ですよ
このお耳の赤み具合、どこかで見覚えが……
……いえ、先ほど右耳をマッサージした時のものではなく、もっと前に……

……ああ、思い出しました
プロポーズをされた時にも、今のように耳を真っ赤にされていましたね
緊張が伝わってきましたが、それ以上に嬉しかったのを覚えています
涙が出る程感動したのは、あの時が初めてだったかもしれません

……ふふっ、お恥ずかしいですか？
でしたらこの話題はここまでにしておきましょう
……今日のところは、ですが

そろそろほぐれてきましたね
耳掃除、していきましょうか

■ヒロイン: ベッドサイドテーブルに置かれていた耳かき棒を手にする
■SE: 耳かき棒を手にする音

// 耳掃除開始

気持ちいいですか？
かゆいところがあったら仰ってくださいね

……どうされましたか？
また難しい顔をされています
戦いのことを思い出され居るのですね

……確かに、情報が漏れているような敵の動きを感じます
ですがまさか、スパイが紛れ込んでいるとお疑いになっておられるということでしょうか？
正直なところ、あり得ない話ではないと思います
先の戦いで我が国軍は国の内外から大きな評価を得ました
その分入隊者も増え……
以前は全員の名前を覚えていましたが、今では顔と名前が一致しない者もいます
その中に内通者が混じっている可能性は否定できません

ご心配は無用です
スパイはいるかもしれませんが、いないかもしれません
それは当事者以外分らないことです
ですが一つだけ確かなことがあります
信頼のおける部下……仲間が大勢いるということ
これだけは揺るぎのない事実ではないでしょうか？

良かったです

穏やかなお顔に戻られました
難しいことは分かっていますが
あなたにはいつも、そんなお顔でいて欲しい
それが私のささやかな願いです
//大きめの耳垢を見つける
.....ふふっ
右耳と同じ場所に大きな汚れを見つけましたよ
同じ形ですから、汚れが溜まりやすいんでしょうか
じっとされていてくださいね
今取り除きますから

カリカリ.....カリカリ.....カリカリ.....
随分と手強い耳垢さんです
こびりついてなかなか取れませんね
.....ですが、先ほどと同じです
耐えて粘れば必ず勝機が生まれます

カリカリ.....カリカリ.....カリカリ.....カリカリ.....

ん.....少し剥がれてきました
この調子で続けます

もう少し.....あと少し.....

やりました、取れましたっ
ほら、こんなに大きな耳垢が

■ヒロイン:うれしさのあまり耳垢を主人公に見せつける

あ.....失礼しました
うれしさのあまり、つい見ていただきたくて
ご自分の耳垢を喜んで見られる方はそう多くはないですよ
.....私は耳垢ですら愛おしいと感じますが.....

//耳の中をのぞき込みながら
ん〜.....大きな耳垢はほとんど取り終えましたね
では、綿棒の出番です

■ヒロイン:ベッドサイドテーブルに耳かき棒を置き、綿棒を手取る
■SE:耳かき棒を置く音、綿棒を手取る音、綿棒掃除音

さっきのお話の続き、よろしいでしょうか
.....はい、内通者がいるかもしれない、というお話です
仲間の信頼もそうですが、圧倒的な力さえあれば何も考えなくて良いのではないのでしょうか？
耳掃除をして思ったのです
綿棒でござり耳の中をほじれば、耳垢はすべて掻き出されていきます
もし事前に攻撃があると分かっている、強大な力さえあれば誰も太刀打ちはできません
軍の話は耳掃除に例えるのもおかしい話だと自分でも思います
ですがそれが真理ではないのでしょうか？
あなたのおかげで、この国は他の追従を許さない程の軍事力を持っています
だからこそ、堂々とされていてください
疑心暗鬼に過ごすのが一番のストレスですから

//思いがけず大きな耳垢が綿棒についており、嬉しそうにする
.....あ
見逃していた耳垢が取れました
こんなに大きな汚れが溜まっていたなんて.....
掃除する前よりも聞こえが良くなったかもしれませんね

■ヒロイン:綿棒を戻し、再び耳かき棒を手にする
■SE:綿棒を置く音、耳かき棒を手にする音

では、梵天での仕上げを始めますね

■ヒロイン:梵天掃除開始
■SE:梵天が耳に当たる音

休憩やリラックスもそうですが、食事はきちんと取られていますか？
食べないと頭も回りませんし、体も動きません
兵士のことは気にかけるのに、ご自分のことはいつでも後回しなんですね
そういうところが好きなんです.....

よければ後で軽食を準備します
.....はい、もちろん私の手作りですよ
私が作ったものですから、残さず食べてくれますよね？
ふふっ、脅しではありません
ただお体が心配なだけです

せっかくですから、好きな料理を作りますね
それに疲労回復に良い甘いものと、腹持ちの良いものも.....
.....ああ、酸味も体に良いと聞きます
では3.....いえ、4品準備して.....
.....ふふっ
これでは全然軽食になりませんね
食べられるだけで構いませんので、少しは食べてください

細かい汚れも全部取れました
これで耳掃除完了です

.....なんですか、その物欲しそうな顔は
分かってますよ
欲しいのは.....

■ヒロイン:不意打ち気味に耳に息を吹きかける

■左(密着・有声囁き)
ふ〜

息の吹きかけ仕上げですよ
大丈夫ですよ、忘れていませんから.....

ふっ.....ふう〜.....ふふふう〜.....ふふふう〜.....ふっ.....
ふうー.....ふー.....ふうー.....ふー.....ふふふう〜.....
ふー——つ.....ふー——つ.....ふう.....ふう〜〜〜.....ふふふう〜.....
ふうー.....ふー.....ふうー.....ふうー.....ふうー.....
この仕上げをしているときが一番、気持ちよさそうなお顔をしています
マッサージも耳掃除も頑張ってるつもりなんです.....
ふう〜〜〜.....ふー.....ふう〜.....ふー——つ.....ふふふう〜.....
ふっ.....ふうー.....ふー.....ふう〜〜〜.....ふう.....
やっぱりこれには敵いませんか？
嬉しいような、切ないような.....
ふう〜〜〜.....ふー.....ふふふう〜.....ふう〜.....ふー.....
ふう.....ふっ.....ふー.....ふう〜.....ふう〜.....
ふー.....ふー.....ふふふう〜.....ふっ.....ふふふう〜.....
ふう.....ふう〜.....ふう.....ふふふう〜.....ふう〜〜〜.....
ふう.....ふうー.....ふふふう〜.....ふうー.....ふう〜.....
でも、あなたがリラックスしてくださるなら何でも良いです
あなたの穏やかなお顔が一番大切ですから
ふっ.....ふふふう〜.....ふー.....ふう〜.....ふふふう〜.....
ふう〜.....ふふふう〜.....ふっ.....ふうー.....ふう〜.....
ふっ.....ふふふう〜.....ふっ.....ふー——つ.....ふうー.....
ふー.....ふう〜.....ふふふう〜.....ふう〜.....ふう〜〜〜.....
ふっ.....ふー——つ.....ふう〜〜〜.....ふうー.....ふう〜.....
ふう〜〜〜.....ふふふう〜.....ふふふう〜.....ふー——つ.....ふっ.....
ふう〜.....ふう.....ふふふう〜.....ふう〜.....ふふふう〜.....
ふっ.....ふふふう〜.....ふう.....ふう.....ふっ.....

長めにしておきますね
サービスです

ふうー.....ふー.....ふう〜.....ふっ.....ふうー.....
ふー.....ふっ.....ふっ.....ふふふう〜.....ふー——つ.....
ふう〜.....ふふふう〜.....ふう.....ふう.....ふう.....
ふう〜〜〜.....ふっ.....ふー——つ.....ふっ.....ふふふう〜.....
ふー.....ふー——つ.....ふうー.....ふう〜.....ふう.....
ふう〜〜〜.....ふう〜.....ふっ.....ふうー.....ふう〜〜〜.....

ふー.....ふー.....ふー.....ふう〜〜〜.....ふー.....
耳がトトロ口になるまで続けます
だからどうか、心も体も芯まで癒やされてくださいね
ふう〜〜〜.....ふうー.....ふう〜〜〜.....ふう〜.....ふっ.....
ふー.....ふふふう〜.....ふう.....ふふふう〜.....ふうー.....
ふう〜〜〜.....ふー——つ.....ふー.....ふっ.....ふう.....
ふう〜〜〜.....ふっ.....ふー——つ.....ふっ.....ふっ.....
ふう〜.....ふっ.....ふうー.....ふー——つ.....ふふふう〜.....
ふふふう〜.....ふう〜.....ふう.....ふー——つ.....ふっ.....
ふうー.....ふー——つ.....ふふふう〜.....ふう〜〜〜.....ふー——つ.....
ふうー.....ふふふう〜.....ふっ.....ふー.....ふうー.....
ふう〜.....ふう.....ふふふう〜.....ふうー.....ふー.....
ふうー.....ふう〜〜〜.....ふふふう〜.....ふー——つ.....ふう〜.....
ふうー.....ふう〜.....ふう〜〜〜.....ふふふう〜.....ふー.....
ふう〜.....ふうー.....ふー——つ.....ふー——つ.....ふふふう〜.....
ふっ.....ふうー.....ふう〜.....ふう〜.....ふう〜〜〜.....

//息の吹きかけ掃除を終える

■左(中)

//軽く呼吸を整えながら

ふう.....ふう.....ふう.....ふう.....

いかがでしたか？

■主人公:気持ちよかった

.....ああ、良かった

こんなことしかできませんが、お役に立てて良かったです

まだ時間は大丈夫ですよ？

このままマッサージをしましょう

先ほどお伝えした通りです

耳のマッサージだけではなく、肩や背中中のマッサージも勉強しておきましたから
体を起こしてください

.....ふふっ

膝枕が気持ちいいのは分かりますが、さあ起きて

■トラック4

■主人公: 膝枕状態から起き上がる

■SE: ベッドの軋み音

■ヒロイン: 膝立ちでベッド上を移動し、主人公の背後に回り込む

■SE: ベッド上を膝立ち移動する音

■背後(中)

では肩と背中の中のマッサージ始めて行きますね

■ヒロイン: マッサージ開始

■SE: カんだ際のベッドの軋み音

//以降、吐息混じりのセリフ(カんだ際の吐息)

ん.....硬い

肩も背中も凝り過ぎですよ

普段から無意識に力が入っているんですね

魔物との戦いが始まって……そろそろ半年ですか
これだけ長期戦になれば、心も体も疲弊します
毎日戦いに明け暮れる日々……
私なんかでは想像もできない程お疲れになっていると思います

この戦いが終わったら、しばらく休暇を取りませんか？
気晴らしに旅行なんていかがでしょうか？
結局、結婚記念日の旅行さえ出来ていませんから
お仕事が忙しかったので仕方がないことですが

いえいえ、根に持っている訳ではありませんよ？
ですが、少くも旅行したいという気持ちがあるのは事実ですけど……
ふふっ
こういうのを根に持っているっていうんですけどね

国内旅行で構いません
各地を観光して回るというのはいかがでしょうか？

……と言っても、あなたのことです
旅行といっても被害状況の確認になってしまうことでしょう
ですがそれで構いません
私もどれだけの被害が出て、どれだけの支援が必要なのか確認したいと思っていますから

それにあなたと一緒にならどこでも良いんです
あなたと一緒にいられることが、私にとって何よりの幸せですから

まずはどこからいきましょうか
海……きっと心地良いでしょうね
潮風に吹かれながら海岸をお散歩
もちろん、手をつないでくださいね？
美味しい海の幸を食べて回るのも楽しいかもしれません
採れたての魚は、ここで食べるものより遙かに美味しいはずです

山も良いですね
木々が生い茂る道を、腕を組んで歩いて……
いわゆる森林浴ですね
実は私、したことがないんです
一緒にいかがですか？

山ならきっと、キノコや自生している野菜なんかも美味しいはずです
見たこともない食材で作られる料理、楽しみです

……ふふっ、さっきから食べ物のお話ばかりですね
食い意地が張っていると思われましたか？
もちろん観光も楽しみですよ

この国に住む人々に会うこと自体が楽しみなんです
あなたのお役に立てるように……
偉大な方のお側にはいつも、懸命な女性の姿があるという言葉があります
私はそういう女性になりたいのです
確かに直接会わずとも、使いの者を送れば概要は把握できます
ですが、その土地で暮らす様子や表情までをくみ取ることは出来ません
市民の心の内を知るには、自分の足で歩いて、目で見て、手に取って
そして悩みや不満を聞いて、よりよい国作りをしたい
それがこの国のためにできる、私なりの方法だと思っていますから

……ふふっ、偉そうな口で語ってしまいましたね
当然、国王であるあなたあってこそ私の私ですから
この国に貢献できる一番身近なことと言えば、あなたの体をいたわって差し上げること

だいぶ凝りが弱くなってきたと思います
マッサージの成果ですね
勉強しておいて良かったです
体が疲れた時や心がすさんだ時はいつでも仰ってください
体をほぐしますし、お話もお聞きます
あなたは一人で抱え込んでしまう癖がありますから
どうか周りに頼ってくださいね

■ヒロイン：肩～背中辺りを手のひらでさすり、マッサージの仕上げを行う
■SE：服越しにさする音
■ヒロイン：マッサージを終える

いかがですか？
体を軽く動かしてみてください

■主人公：体を軽く動かす
■SE：ベッドの軋み音、衣擦れ音

体、軽くなりましたか？
良かったです
お仕事も良いですが、たまには椅子から立ち上がって体を動かしてくださいね
お散歩ならいつでもお付き合いしますよ
■トラック5

■ヒロイン：主人公の隣に移動し腰掛ける
■左（中）

少しは心が安らかになりましたか？
……ふふっ
リラックスしたせいか、眠そうです
日頃の寝不足もたたっているのだと思います

■主人公:このまま仕事に戻ると言い出す

.....すぐお仕事に？
それも良いですが.....仮眠を取られてはどうですか？
ほんの2時間程です
少しでも眠った方が頭の回転が良くなって、効率が上がりますよ
睡眠不足のままでは、正しい判断ができるはずありません
私が起こして差し上げますから

.....それとも、添い寝した方がよく眠れそうですか？
でしたらご一緒に.....

■主人公とヒロイン:ベッドに横たわる
■SE:ベッドの軋み音、衣擦れ音

■左(密着・有声囁き)
眠れるまでずっと見守っておきます
ですから目を閉じて.....
体から力を抜いて.....頭の中を空っぽにするんです

頭、撫でてでもよろしいでしょうか？
その方がきっとリラックスできると思います

■ヒロイン:頭を撫で始める
■SE:頭を撫でる音

あなたはいつも頑張っているから
少しぐらいの休憩で責める者は誰もおりません
だからどうか今だけは心安らかに.....

■間を空けて、頭を撫でる音が消える
■ヒロイン:寝息を立て始める

//浅い眠り ループ
すう.....すう.....
すう.....すう.....
すう.....くう.....
くう.....すう.....

//軽く声が漏れ出る
んっ.....んんんうっ.....

//声が出た後しばらく寝息や止み、時間をおいて寝息を立て始める

//中程度の眠り ループ
くう.....すう.....
くう.....すう.....
ん.....んんう.....
くう.....う.....
くう.....くう.....

//深い眠り ループ

くう.....くう.....

くう.....すう.....

くう.....すう.....

すう.....すう.....

//寝息がフェードアウト